

平成19年度環境技術実証モデル事業検討会
VOC処理技術拡大ワーキンググループ会合
議事要旨

1. 日時：平成19年12月10日（月）13:00～15:00
2. 場所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)第2セミナー室
3. 議題
 - (1) 環境技術実証モデル事業（VOC処理技術分野）の概要について
 - (2) 事業や対象技術への要望・意見
 - (3) 実証によるメリット等の向上についての要望・意見
 - (4) 手数料体制への移行にあたっての要望・意見
 - (5) その他
4. 出席検討員：坂本和彦（座長）、岩崎好陽、尾形敦、土井潤一、保坂幸尚、本田城二
意見者（実証機関）：財団法人東京都環境整備公社（平成15～19年度実証機関）
財団法人九州環境管理協会（平成19年度実証機関）
意見者（他分野実証運営機関）：財団法人日本環境衛生センター（平成18～19年度
小規模排水処理分野実証運営機関）
意見者（環境技術開発者）：東洋紡績株式会社（平成17、18年度実証経験者）
株式会社アース・フラップ（平成18年度実証経験者）、
有限会社アマリ精工（平成19年度実証試験実施中）
5. 配付資料
 - 資料1 環境技術実証モデル事業（VOC処理技術分野）の概要について
 - 資料2 手数料体制について
 - 資料3 環境技術実証モデル事業 VOC処理技術分野の運営全般に対する意見について
 - 資料4 平成19年度のスケジュール（予定）
 - 参考資料1 環境技術実証モデル事業のご案内（パンフレット）
 - 参考資料2 中小事業所向け VOC処理技術分野実証試験要領
 - 参考資料3 平成18年度実証試験結果報告書の概要「VOC処理技術分野」
 - 参考資料4 「平成18年度 VOC処理技術拡大ワーキンググループ会合」におけるアンケート結果
 - 参考資料5 エコプロダクツ2007（パンフレット）
6. 議事
会議は公開で行われた。
 - (1) 環境技術実証モデル事業（VOC処理技術分野）の概要について
事務局から資料1及び資料2に基づき、本事業および本技術分野の概要及び手数料体制における事業の概要について説明。

(2) 事業や対象技術への要望・意見

事務局から資料3に基づき、本事業および本技術分野に関する要望・意見を説明の後、意見者より、本事業および本技術分野に関する要望・意見を発表。主な要望・意見は下記の通り。

- 「中小事業所向け」VOC 処理技術を対象技術としてのイメージを具体的にしたほうが技術者が開発しやすいのではないか。
- エンドオブパイプ技術のほか、インプラント技術（工程内における排出抑制技術）も中小事業所にとってより安価なもので済むと思うので実証の可能性を検討すべきではないか。

(3) 実証によるメリット等の向上についての要望・意見

事務局から資料3に基づき、実証によるメリット等の向上についての要望・意見を説明の後、意見者等より、実証によるメリット等の向上についての要望・意見を発表。主な要望・意見は下記の通り。

- 本実証モデル事業の認知度が低いので、更なる周知を希望する。
- ユーザーの判断を容易にするため、実証対象技術の選定基準および選定理由、実証試験結果を公表してはどうか。そうすれば、認証的な要素を高めることになるのではないか。
- 実証メリットを向上させるためには、装置導入の促進にかかる他省庁事業と連携を図り、技術開発者のメリットを高めていくことが必要ではないか。

(4) 手数料体制への移行にあたっての要望・意見

事務局から資料3に基づき、手数料体制への移行にあたっての要望・意見を説明の後、意見者等より、手数料体制への移行にあたっての要望・意見を発表。主な要望・意見は下記の通り。

- 手数料が高くなることで実証申請者が少なくなる懸念があり、必要最低限の実証項目にとどめたり、技術開発者が提出するデータを活用する等、手数料をできる限り安価に抑えるための工夫ができるのではないか。

(5) その他

事務局から資料4に基づき、平成19年度のスケジュールを説明。

(文責：環境省水・大気環境局環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)